

【ユニリハ】ポジショニング R.E.D.セミナー

～微小重力環境で行う筋緊張制御～

身体質量と重力を拮抗させた環境でポジショニングアプローチを行う事で、筋緊張が安定し、関節拘縮の変化が長時間持続するという臨床研究が発表されました。低反撥マットレスを数枚重ねてポジショニングを行うこの環境を Rehabilitation & Engineering Design -R.E.D.-とし、2010年より研究が開始されました。長期療養生活を送り、長い年月をかけてもたらされた過緊張に対する関節拘縮の変化と循環器系の安定例は、これまでの臨床場面では見られなかった新しい発見と、今後の医療に大きく影響する事が示唆されました。

日時 2019年11月22日（金） 10:00～16:30

・会場 八王子市芸術文化会館いちようホール（東京都八王子市本町24-1）

参加費 15,000円

・申込URL <http://universalreha.com/>

お問い合わせ

日本ユニバーサルリハビリテーション協会

TEL 042-208-0102

E-mail otmode@jcom.home.ne.jp

URL <http://universalreha.com/>

<プログラム>

◆理論編 症例結果、研究報告

重力をコントロールしたポジショニングを行うことで、異常筋緊張に変化が起こり姿勢、動作、ADL に影響した研究結果と具体的な症例と共にご紹介します。

○長期療養生活者の筋緊張の緩和と関節拘縮の変化

○慢性閉塞性肺疾患患者の身体機能変化とバイタルの安定

○起居動作全介助の状態から短時間で移動、移乗、ADL を獲得した症例群



R. E. D. 介入前



◆実技体感編 臨床への応用

○（医学相対性理論、R. E. D. 環境の解説）

訓練場面で低反撥マットレスを重ねてポジショニングをとるだけで、筋緊張の変化から関節拘縮の改善が起こります。この原理を紐解きます。

○（R. E. D. 環境を使った訓練場面でのポジショニング実技）

安定した筋緊張は持続します。再び亢進しても適宜継続して介入することで、姿勢の変化や全介助から自立する症例がみられてきます。

この事例を交えながら実践していただきます。

○（R. E. D. を生かした各症例に対してのポジショニング実技）

R. E. D. 環境で簡単に過緊張の筋は緩み、姿勢は変化します。これを疾患別に説明します。



R. E. D. 介入後